

オヤビッチャ 海

Abudefduf vaigiensis



■ オヤビッチャ KAUM-I. 5672, 体長 112.4 mm 種子島



■ オヤビッチャ KAUM-I. 45939, 体長 49.5 mm 与論島



■ オヤビッチャ KAUM-I. 41131, 体長 45.5 mm 与論島

特徴 体は丸い。尾^{おびれ}鰭はとがる。青色で、5本の黒い帯をもつ。背^{せびれ}中と背^{せびれ}鰭は、黄色みがかかる。

分布と生態 鹿児島県の浅い海でふつうにみられるスズメダイ^{るい}類の代表。小さなものは、潮^{しお}だまりなどで小さな群^むれをつくる。稲荷^{いなり}川の横にある海岸^{さいしゅう}で採集された。鹿児島湾内では、どこでもよくみられる。

メモ 堤防^{ていぼう}からのサビキ釣りでよく釣れる魚。大きなものは塩^{しお}焼きでおいしい。きれいなスズメダイなので、水族館^{てんじ}でも展示されている。(福井)





シマイサキ KAUM-I. 10932, 体長 156.3 mm 鹿児島湾

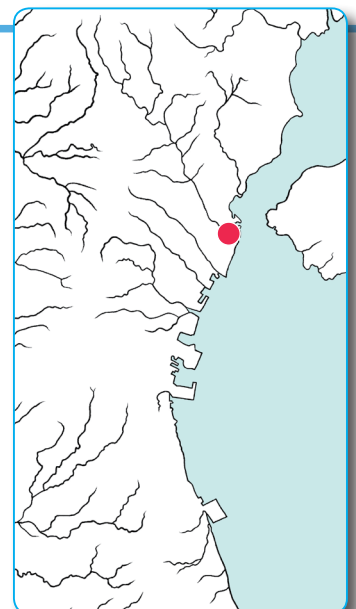


シマイサキ KAUM-I. 6307, 体長 39.2 mm 肝属町 肝属川

特徴 体形はタイ型。口はよくとがる。^{えらぶた}鰓蓋に1本の強い棘^{とげ}がある。^{ひれ}鰭の棘はつよい。体は銀白色で背中^{しゅうたい}は茶色^{せいぎよ}がかかる。体に4本の目立つ黒色の細い縦帯^{ようぎよ}がある。

分布と生態 幼魚は河口^{かうこう}や、砂浜^{せうぎよ}でよくみられ、成魚は海^{かい}でみられる。つかまると鰓^{えらぶた}をグウグウと鳴らしながら、^な鰓蓋^{とげ}にある棘^{てき}を広げて敵^{てき}を威嚇^{いこく}する。幼魚^{ようぎよ}は砂にもぐることがある。南日本に広く分布^{ぶんぷ}し、鹿児島市^{こうつぎ}の川では甲突川^{こうつぎ}でとれた。

メモ 名前に“イサキ”とあるが、イサキ科^{なかま}の仲間ではなくシマイサキ科^{えらぶた}の魚。鰓蓋^{とげ}に強い棘^{とくちよう}をもつのが特徴。シマイサキ科^{えんがん}の魚は日本から7種が知られているが、鹿児島県^{えんがん}の九州沿岸^{せうぎよ}でみられるのは、シマイサキとコトヒキがほとんど。成魚は定置網^{ていぢあんみ}などでとれる。(松沼)





コトヒキ KAUM-I. 50269, 体長 31.2 mm 種子島



コトヒキ KAUM-I. 11489, 体長 45.2 mm 屋久島

特徴 体形はタイ型。口は丸みをおびる。鰓蓋に1本の強い棘がある。鰭の棘はつよい。体は銀白色で、3本の黒色の縦帯がある。体の帯はカーブを描く。尾鰭に縞模様がある。

分布と生態 浅い海や河口にすみ、幼魚はとくに河口の砂地でよくみられる。つかまると鰾をグウグウと鳴らす。南日本に広く分布する。鹿児島市の川では、甲突川と永田川の河口近くで採集された。

メモ シマイサキと似るが、コトヒキの体にある帯はカーブを描くことで、帯が直線のシマイサキと見分けられる。定直網や釣りでとれ、食用になる。(松沼)





■ ユゴイ KAUM-I. 25049, 体長 78.4 mm 屋久島



■ ユゴイ KAUM-I. 50264, 体長 32.4 mm 種子島

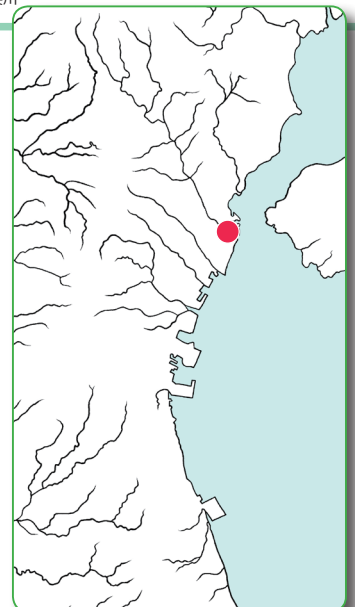


■ ユゴイ KAUM-I. 34077, 体長 20.0 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 体はよこからみて^{だえん}楕円形。^{しりびれ}臀鰭は長い。^{ひれ}鰭の^{とげ}棘は強い。銀白色で、背中^{せびれ}は黒みがかる。^{しりびれ}背鰭と^{おびれ}臀鰭の前方は赤黒い。尾鰭^{ようぎよ}の上下も広く赤黒い。

分布と生態 ^{ちゅうりゅう}川の中流から^{かこう}河口にかけてみられる。虫や小さな魚を食べる。南日本に分布する。^{ぶんぶ}鹿児島市の川では、^{こうつき}甲突川の^{かりゅう}下流で1個体の^{ようぎよ}幼魚がとれた。九州の川では稀で、とれても幼魚ばかり。一方で、^{たねがしま}種子島・^{やくしま}屋久島よりも南の地域では、よくみられる川魚のひとつ。

メモ 体に黒色の点がたくさんあるものと、まったくないものが知られる。これはすんでいる場所の違いによるものと考えられている。(松沼)





■ メジナ KAUM-I. 44954, 体長 117.8 mm 種子島



■ メジナ KAUM-I. 29010, 体長 28.0 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸

特徴 体は丸みをおびる。^{おびれ}尾鰭のつけねが太い。全身が黒い。

分布と生態 鹿児島県ではどこでもよくみられる。浅い海にすむ。小さなものは、^{しお}潮だまりなどで^む群れる。なんでもよく食べる。^{いなり}稲荷川横の海岸で採集された。

メモ クロメジナとよく似ているが、^に鰓蓋の後ろが黒くないことで見分けられる。

釣り魚として人気があり、^{ぎょこう}岩場や漁港で釣れる。^{ていちはみ}定置網などでもとれ、食用になる。1本の歯の先が3つに分かれている。これで岩についた^{かいそう}海藻などをけずりとして食べる。(福井)





■ カミナリベラ KAUM-I. 9063, オス, 体長 90.9 mm 南さつま市笠沙



■ カミナリベラ KAUM-I. 20273, メス, 体長 53.6 mm 屋久島



■ カミナリベラ KAUM-I. 9092, メス, 体長 46.7 mm 阿久根市

特徴 幼魚は、背鰭の後ろと尾鰭のつけねに黒い点をもつ。メスは体に、黒い線をもつ。オスは体が黄緑～黄色で、2本の鮮やかな黄緑色の縦縞をもつ。また、胸鰭のつけねが鮮やかなオレンジ色に染まる。

分布と生態 浅い海にすむ。稲荷川横の海岸でとれた。

メモ ベラ科の魚は、オスとメスで色が異なり、性転換（成長によって性別が変わること）することが知られている。カミナリベラはメスからオスに変化する。よく釣れるが、食用には向かない。

幼魚は水深 1 m くらいの浅い海や潮だまりで観察される。幼魚は、背鰭の後ろと尾鰭のつけねにそれぞれ 1 つ、小さな黒い点をもつことが特徴。（福井）





■ ヘビギンボ KAUM-I. 29021, 体長 46.9 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ ヘビギンボ KAUM-I. 21643, 体長 41.4 mm 屋久島

特徴 体は細長く、背^{せびれ}鰭を3つもつ。4～5本の白い横^{おうたい}帯がある。オスとメスで体の色が大きく異なり、メスは赤^{せいじゆく}っぽく、成熟したオスは真^まっ黒。

分布と生態 浅^{しお}い海にすみ、潮^{しほ}だまりなどでふつうにみられる。稲^{いな}荷^{なり}川^{がわ}横^{ぎわ}の海岸^{かいがん}で採^{さい}集^{しゅう}された。

メモ 普^ふ段^{だん}は岩^{いわ}の上^{うへ}で鰭^{ひれ}を広^{ひろ}げてじっとしているが、危^き険^{けん}が迫^{せま}ると素^{もの}早^{かげ}く物^{もの}陰^{かげ}に身^みをかくす。岩^{いわ}の上^{うへ}をとびはねるよう^のに泳^{およ}ぐ。オスは、成^{せい}長^{じやう}すると背^{せびれ}鰭^{ひれ}の前^ののほう^のが伸^のび、体^{てい}の色^{いろ}が黒^{くろ}くなる。(福^ふ井^い)





■ ナベカ KAUM-I. 47282, 体長 61.5 mm 鹿児島湾



■ ナベカ KAUM-I. 47283, 体長 51.7 mm 鹿児島湾

特徴 体はやや細長い。^{うろこ}鱗がない。頭から体の中央まで茶色のしま模様がある。体の後ろには、たくさんの白と黒の点がある。

分布と生態 浅い海^{かいそう}の海藻のはえるところでみられる。雑食で、なんでもよく食べる。稲荷川横^{いなり}の海岸^{さいしゅう}で採集された。

メモ ^{むなびれ}胸鰭を広げて、岩の上にとどまることが多い。大きな目で近づいてくる生き物をじっと見ている。口が小さいので、釣^{さいしゅう}りでの採集はむずかしいため、^{あみ}網ですくって採集するとよい。(福井)



ニジギンポ

海

Petroscirtes breviceps

■ ニジギンポ KAUM-I. 26271, 体長 83.5 mm 南さつま市 笠沙



■ ニジギンポ KAUM-I. 29004, 体長 83.1 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸

特徴 体は細長い。口はおちょぼ口で、強い犬歯^{けんし}をもつ。体は茶色で、しま模様^{ちようおびれ}がある。尾鰭^{おびれ}は上下がのびる。

分布と生態 長い鰭^{ひれ}をつかって水中を^{ひれ}によろ^{ひれ}によろと泳ぐ。岩穴や貝殻^{かいがら}の中に卵を産む。空き缶^{かいそう}の中に産むこともある。浅い海^{かいそう}の海藻のはえるところにすむ。流れ藻^{ながも}につくこともある。稲荷川横^{いなり}の海岸で採集^{さいしゅう}された。

メモ つかえまると、するどい犬歯^{けんし}で噛^かもうとしてくる。かまれると痛い^{いた}ので気を付けよう。たまに釣れる。(福井)





■ ネズミゴチ KAUM-I. 29014, 体長 93.3 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ ネズミゴチ KAUM-I. 38077, 体長 86.1 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ ネズミゴチ KAUM-I. 42165, 体長 150.0 mm 長島町

特徴 体は細長く平たい。鱗がなく、つるつる。口は小さく下につく。背鰭は2つ。第2背鰭と臀鰭は長い。腹鰭は大きい。頭と体は茶色で、腹は白色。背鰭に網目模様がある。メスやオスの幼魚は第1背鰭に黒色の斑点を1個もつ。

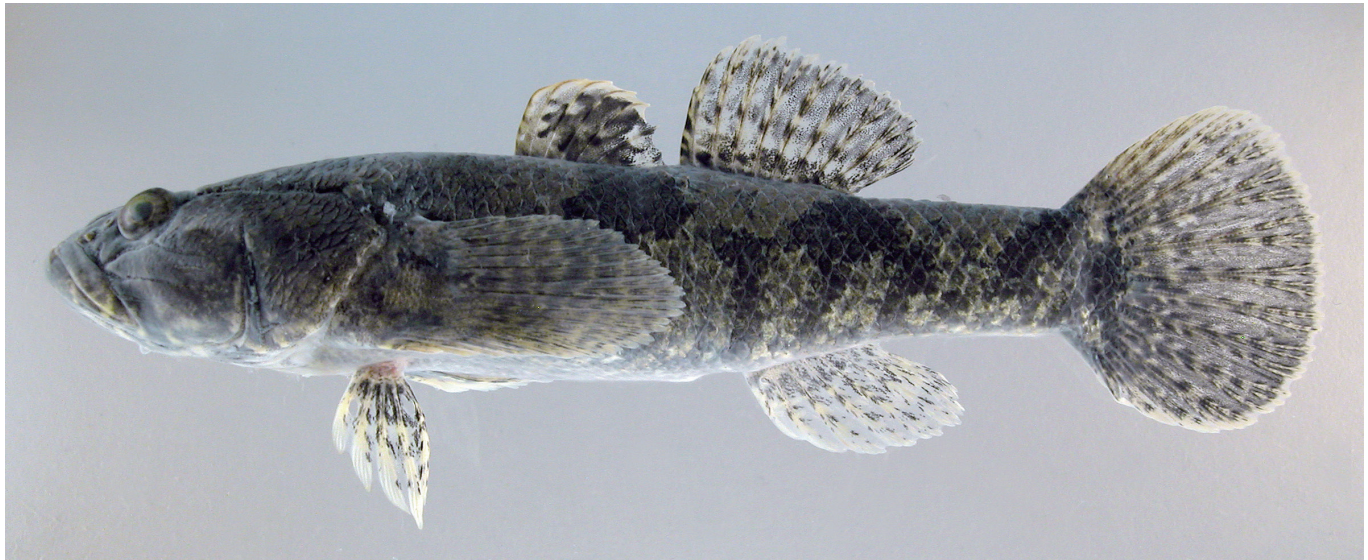
分布と生態 岸に近い浅い海の砂底にすむ。海底にすむ小さな動物を食べる。南日本に分布し、鹿児島市では稲荷川の河口近くの砂浜や八幡川の河口で採集された。

メモ 釣りや投網でとれる。食用になり、天ぷらにするとおいしい。名前に“コチ”とあるが、コチ科の魚ではない。(松沼)





■ ドンコ KAUM-I. 10750, 体長 123.7 mm 栃木県



■ ドンコ KAUM-I. 4269, 体長 82.1 mm 鹿児島県

特徴 体は太い。背^せ鰭^{びれ}は2つ。第2背^せ鰭^{びれ}と臀^{しり}鰭^{びれ}はほぼ同じ長さ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤状でない。尾^お鰭^{びれ}は丸い。頭と体は濃い茶色から黒色でまだら模様がある。

分布と生態 一生を川^{じゅんたん}ですごす（純淡水魚とよぶ）。川の上流^{じょうりゅう}から下流^{かりゅう}の流れがおだやかなところにすむ。小さな魚やカニやエビなど甲殻類^{こうかくるい}を食べる。本州中部から九州にかけて分布^{ぶんぷ}し、鹿児島市の川では甲突川^{こうつぎ}、稲荷川^{いなり}の上流^{じょうりゅう}で見られる。

メモ ドンコは地域^{ちいき}によって遺伝^{いでんてき}的な特徴^{とくちょう}が異なることが知られている。鹿児島県の九州地方はドンコの世界的な分布^{ぶんぷ}の南限^{なんげん}。屋久島^{やくしま}・種子島^{たねがしま}から南の島には分布^{ぶんぷ}しない。（松沼）





■ カワアナゴ KAUM-I. 3657, 体長 107.8 mm 鹿児島市 永田川



■ カワアナゴ KAUM-I. 32669, 体長 193.9 mm 鹿児島市 甲突川



■ カワアナゴ KAUM-I. 40432, 体長 67.9 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体はやや長く、頭は平べったい。背^{せびれ}は2つ。左右の腹^{はらびれ}はつながらない。尾^{おびれ}は丸い。体は茶色から黒色で、第1背^{だい}は赤くふちどられる。

分布と生態 川の下流^{かりゅう}から河口^{かこう}にかけてすむ。砂や泥底の石の下や流木^{りゅうぼく}の下にひそむ。魚や甲殻類^{こうかくるい}などをよく食べる。稚魚^{ちぎょ}（子ども）は生まれると海にくだり、成長すると川にもどってくる。大きいものでは20 cmをこえる。本州中部から屋久島^{やくしま}にかけて分布し、鹿児島市では甲突川^{こうつき}と永田川^{ながた}でみられる。

メモ 手網^{てあみ}で水底の石や流木^{りゅうぼく}、岸近く^{かげ}の草の影を探るととれる。食用になるが鹿児島県では利用されていない。カワアナゴ科はハゼ科に近いグループ。（松沼）

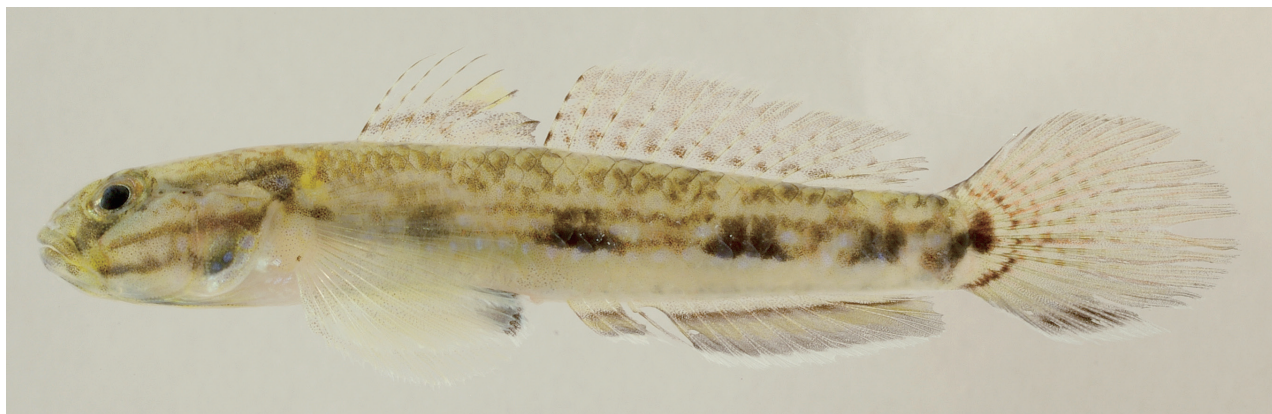


ツマグロスジハゼ 川海

Acentrogobius sp. 2



■ ツマグロスジハゼ KAUM-I. 8816, 体長 34.7 mm 鹿児島市 甲突川



■ ツマグロスジハゼ KAUM-I. 8813, 体長 40.0 mm 鹿児島市 甲突川



■ ツマグロスジハゼ KAUM-I. 10125, 体長 40.1 mm 鹿児島市 愛宕川

特徴 体はやや長い。背^せ鰭^{びれ}は2つ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状になる。体は薄^{うす}い茶色で、体側に5個の黒色の斑紋^{はんもん}、多数の小さな青色点がある。腹^{はら}鰭^{びれ}の先は黒色でふちどられる。

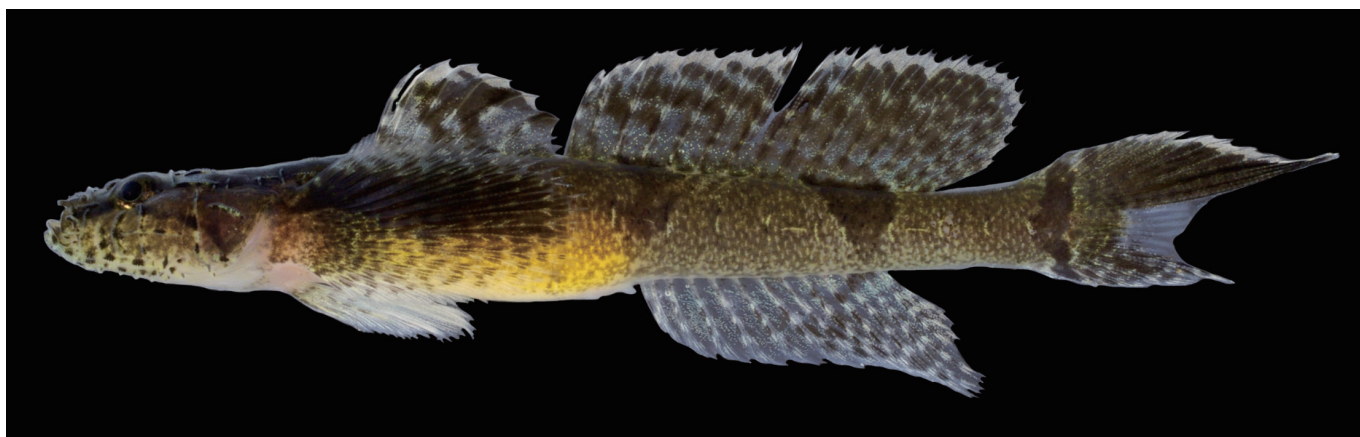
分布と生態 内湾^{ないわん}から河口^{かこう}の泥や砂底でみられる。テッポウエビ^{すあな}などの巣穴^{ふんぶ}にすんでいることが多い。5 cm ほどまで成長する。南日本に分布し、鹿児島市では甲突川^{こうつき}と愛宕川^{あたご}の河口^{かこう}で採集されている。

メモ 生きているときは青色の模様が輝き、とてもきれいなハゼ。死ぬと青色^{もよう}の模様は消えてしまう。(松沼)





■ タネハゼ KAUM-I. 4314, 体長 54.7 mm 鹿児島市 愛宕川



■ タネハゼ KAUM-I. 39168, 体長 42.0 mm 種子島



■ タネハゼ KAUM-I. 11333, 体長 42.1 mm 屋久島

特徴 体はやや長く、^{おびれ}尾鰭が長く大きい。^{はらびれ}腹鰭は吸盤になっている。^{うろこ}鱗は小さく、体はややぬめぬめ。顔にひだ状の突起がたくさんある。体は茶色で、4本ほど黒い帯がある。10 cm くらいになる。

分布と生態 潮だまりや河口など浅い砂泥底でよくみられる。南の^{あた}暖かい海で多くみられ、九州よりも北の地域では、太平洋側の^{あた}暖かいところにしかない。鹿児島市では、^{しお}甲突川と^{かこう}愛宕川の^{すなどろそこ}河口で採集されたことがある。

メモ タネハゼは、^{たねがしま}種子島で^{さいしゅう}採集された^{ひょうほん}標本をもとに1908年に^{しんしゅ}新種として発表された。タネハゼの学名にある *tanegashimae* (タネガシマエ) はそのこと^{はっぴょう}に由来する。^{がくめい}(松沼)





■ ドロメ KAUM-I. 8665, 体長 70.8 mm 鹿児島湾



■ ドロメ KAUM-I. 6847, 体長 68.8 mm 鹿児島湾



■ ドロメ KAUM-I. 75397, 体長 40.6 mm 長崎県

特徴 ややずんぐりした茶色のハゼで、体に白点がたくさんある。尾鰭のつけねに黒色の斑点がひとつある。口が大きい。

分布と生態 鹿児島県の浅い海でよくみられるハゼ。潮だまりや漁港でよくみられる。河口でもたまにとれる。大きいものでは10 cm ほどになる。春に、港の中などで、小さな稚魚（子ども）が群で泳いでいるのが観察できる。成長すると、海底におりて、底での生活にかわる。稲荷川の河口の海岸で採集された。

メモ 漁港や堤防などでたまに釣れるが、ふつう食用にはしない。（松沼）





■ ヒモハゼ KAUM-I. 32492, 体長 36.6 mm 鹿児島市 永田川



■ ヒモハゼ KAUM-I. 3546, 体長 28.8 mm 日置市 神之川



■ ヒモハゼ KAUM-I. 39160, 体長 20.6 mm 種子島

特徴 名前のとおり、ヒモのように細長い。ハゼにみえないがちゃんと腹鰭が吸盤になっている。背鰭は2つあり、前のものはとても小さい。太い黒色の帯が1本ある。

分布と生態 5 cm ほどのハゼで、川と海の水がまざる河口でみられる。きれいな砂泥底にすみ、シャコ類やカニ類が掘った巣穴にすることが多い。鹿児島市内の川では、ヒモハゼがみられる川は限られており、永田川の河口でしかみつかっていない。

メモ ミミズハゼやウナギに似るが、背鰭が2つあることで見分けられる。ひじょうに細長いので、タモ網でとれても網目をくぐって逃げるが多い。つかまえたら、注意してバケツに移そう。(松沼)





■ ヒメハゼ KAUM-I. 39135, 体長 53.3 mm 種子島



■ ヒメハゼ KAUM-I. 10397, 体長 31.3 mm 鹿児島市 喜入生見

特徴 小さなハゼでスマートな体つき。うすい茶色で、体の中央に黒い点がならぶ。尾鰭のつけねに黒い模様がある

分布と生態 河口の砂泥底でみられ、シャコ類やカニ類の掘った巣穴にすむことが多い。小さなハゼで 6 cm ほどになる。鹿児島市内では、ほとんどの川の河口でみられ、稲荷川、甲突川、新川、愛宕川から採集された。

メモ 砂泥底の河口でよくとれる。一見すると地味だが、鰭の模様がきれいなハゼで、とれるとうれしい。ヒメハゼとゴクラクハゼの子どもは、よく似ているが、ヒメハゼの口は角ばり、ゴクラクハゼの口は尖る（横から見ると三角形）ことで見分けられる。（松沼）





■ ウロハゼ KAUM-I. 39054, 体長 102.0 mm 種子島



■ ウロハゼ KAUM-I. 5239, 体長 94.1 mm 種子島

特徴 ハゼの見本のようなハゼ型。体は太く、ずんぐりしており、
うるこ 鱗が大きい。口も大きい。体は茶色で、目立つ模様はない。

分布と生態 かりゅう かこう 川の下流や河口など、川と海の水がまざるところでみ
ちゅうりゅう られる。中流でもみられることがある。大きな石の下などにひそむ。
すなどろぞこ 砂泥底も好む。大型のハゼで、おおがた 大きなものでは 20 cm くらいになる。
 鹿児島市内では、多くの川の河口や下流でみられ、かこう かりゅう いなり こうつき 稲荷川、甲突川、
ながた あたご すず さいしゅう 永田川、愛宕川、鈴川で採集されている。

メモ 捨てられたパイプの中によくいる。太いパイプをみつけたら、
あみ 片方を網の中にいれたまま、もう片方を持ち上げると、中のウロハゼ
あみ が網にはいる。鹿児島県では食用にされない。(松沼)





■ スミウキゴリ KAUM-I. 6127, 体長 98.7 mm 阿久根市 尻無川



■ スミウキゴリ KAUM-I. 10740, 体長 97.9 mm 栃木県



■ スミウキゴリ KAUM-I. 6269, 体長 89.3 mm 肝付町 久保田川

特徴 全長 10 cm ほどのハゼ。体はやや長く、ぬめる。口が大きく、
 下顎が上顎より長い。鱗は小さく目立たない。茶色でまだら模様がある。
 尾鰭のつけねに黒色の模様がひとつある。

分布と生態 小さな川を好み、川の河口から下流にかけてみられるが、上流部でみられることもある。大きな個体は、石の下などでじっとしていることが多い。水生昆虫や小さな甲殻類、魚類を食べる。鹿児島県では九州地方と種子島・屋久島に分布する。鹿児島市内の川では、川の長さが短い貝底川と鈴川で採集されている。

メモ 鹿児島市内では、南にある小さな川でしか採集されていない。(松沼)





■ クボハゼ KAUM-I. 2854, 体長 27.7 mm 鹿児島市 鈴川



■ クボハゼ KAUM-I. 4805, 体長 15.4 mm 出水市 境川

特徴 4 cm ほどの小型のハゼ。体はやや細長い。うすい茶色から褐色で、腹に「へ」の字の形の模様がたくさんある。

分布と生態 海と川の水がまざる河口でみられ、良好な砂泥干潟にすむ。シャコ類が掘った穴にすることがある。クボハゼがすむのに適した干潟が少ないため、鹿児島県ではクボハゼがみられる川は少ない。鹿児島市内では鈴川の河口で採集されている。

メモ 絶滅危惧種。埋め立てなどによる環境の変化で、クボハゼのすめる干潟のある川が減ってきている。

砂泥の干潟で、シャコ類やカニ類の巣穴があるようなところで、泥ごと網にいれて、水で洗い流すと採集できる。(松沼)





■ クツワハゼ KAUM-I. 1363, 体長 66.7 mm 南さつま市 笠沙



■ クツワハゼ KAUM-I. 47291, 体長 63.6 mm 鹿児島湾



■ クツワハゼ KAUM-I. 29005, 体長 49.0 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸

特徴 体はやや長い。吻（頭の先っぽ）が丸く突出する。鱗は大きく目立つ。薄茶色で、眼の後ろに長く黒い縞模様がある。鰓蓋に青白い点がいくつかある。8 cm ほどになる。

分布と生態 鹿児島県の九州地方の海でよくみられるハゼ。潮だまりや岩場のある海岸、漁港などでみられ、たまに釣れる。エビ・カニ類やゴカイ類などを食べる。稲荷川横の海岸で採集された。

メモ 小さいので食用にはされない。生きているときは、頬の青白い点が輝き、きれいなハゼ。（松沼）



ミミズハゼ 川

Luciogobius guttatus

■ ミミズハゼ KAUM-I. 1278, 体長 56.4 mm 鹿児島市 稲荷川



■ ミミズハゼ KAUM-I. 1190, 体長 43.2 mm 鹿児島市 永田川



■ ミミズハゼ KAUM-I. 3762, 体長 35.8 mm 日置市 永吉川



■ ミミズハゼ KAUM-I. 66024, 体長 50.3 mm 長崎県

特徴 体は細長く、ぬめりがある。頭は平たい。腹^{はら}鰭は小さな^{せびれ}吸^{きゅうばんじょう}盤状だが、小さく目立たない。背^せ鰭は1つ。体色は透明感のある^{とうめいかん}褐色だが、個体によっておおきく異なる。全長7 cm ほど。

分布と生態 海の水がまざる河口や下流の転石の多いところでみられる。海岸の淡水が流入^{りゅうにゅう}するところや湧水のあるところでもみられる。石の間をくねくねと素早く移動するのでつかまえるのがむずかしい。動物食で、ゴカイ類やヨコエビ類、甲殻類などを食べる。鹿児島市内では永田川水系の和田川の下流でよくみられる。甲突川の河口でも採集されている。

メモ 日本からはこれまでに22種のミミズハゼ属^{そくぎよるい}魚類が知られている。これらは互いによく似ており、分類がむずかしい。今後さらに種数が増える可能性がある。(松沼)





■ アベハゼ KAUM-I. 81888, 体長 24.7 mm 高知県



■ アベハゼ KAUM-I. 5509, 体長 47.3 mm 指宿市 二反田川



■ アベハゼ KAUM-I. 4863, 体長 26.6 mm 出水市 高尾野川

特徴 体はややスマート。背^{せびれ}鰭は2つあり、オスの第1背^{だい}鰭は糸状^{せびれ}にのびる。腹^{はらびれ}鰭は吸盤^{きゅうばんじょう}状。体色は、暗い灰色で、体の前のほうには暗色の横^{おうたい}帯が、後ろには2本の縦^{じゅうたい}帯がある。5 cm ほどになる。

分布と生態 河口^{かこう}や内湾^{ないわん}などの海水と淡水がまざるところにすむ。干潮^{かんちょう}時の干潟^{ひがた}にできた潮^{しお}だまりでも観察できる。水の汚れに強い^{いなり}ため、多くの川でみられる。鹿児島市内では稲荷^{いなり}川、永田^{ながた}川、愛宕^{あたご}川、鈴^{すず}川^{さいしゅう}で採集されている。

メモ よごれた川で、メタンガスが発生するようなところにもめる強いハゼ。(松沼)





■ ゴマハゼ KAUM-I. 50249, 体長 14.8 mm 種子島



■ ゴマハゼ KAUM-I. 50250, 体長 13.7 mm 種子島

特徴 とても小さいハゼで 2 cm ほど。体はややずんぐりしており、
透明。黒色の模様がある。背鰭は 2 つあり、前の背鰭は黒く、先端
は青白い、後方は黄色。

分布と生態 河口や海岸の淡水の影響が強い汽水域にすむ。流れの
ない場所をこのむ。底にはつかず、大群をつくり浮遊している。九州
地方ではゴマハゼがみられる川は限られる。鹿児島市内では愛宕川と
鈴川の河口で採集された。

メモ 日本産の脊椎動物のなかでは最小の動物。かつては
平川動物公園の近くにある障子川の河口にも生息していたようだが、
現在ではみられない。ゴマハゼがすむのに適した環境は、埋め立てや
河川工事などにより減ってきている。(松沼)





■ ヒナハゼ KAUM-I. 39035, オス, 体長 28.0 mm 種子島



■ ヒナハゼ KAUM-I.8814, メス, 体長 27.3 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 ^{こがた}小型のハゼで 4 cm ほど。体はずんぐりしており、オスはメスよりも顎が大きい。背^{せびれ}鰭は 2 つあり、オスの第 1 背^{だい}鰭はのびる。体は茶色で、黒い模様^{もよう}がある。背^{せびれ}鰭は黄色っぽい。

分布と生態 鹿児島県の汽水域でよくみられる代表的なハゼ類のひとつ。ただ、小さくあまり目立たない。河^{かこう}口や下流^{かりゅう}の流れがおだやかなところにすむ。鹿児島市内では多くの川でみられ、稲^{いな}荷^{なり}川、甲^{こう}突^{つき}川、永^{ながた}田^{しょうじ}川、障^{あたご}子^{けそこ}川、愛^{すず}宕^{ふく}川、貝^{るい}底^{こと}川、鈴^{こと}川で採集されている。

メモ ハゼ類は、オスとメスで、色や体の形が異なることが多い。これは性的二型という。ヒナハゼのオス（上の写真）は、メス（下の写真）とくらべて、前^{せびれ}にある背^{ふくぶ}鰭が糸のようにのび、口がやや大きい。一方、メスは卵をもつので、腹^{ふくぶ}部が大きい。（松沼）



クロヨシノボリ 川

Rhinogobius brunneus

■ クロヨシノボリ KAUM-I. 38651, オス, 体長 68.0 mm 屋久島



■ クロヨシノボリ KAUM-I. 2736, メス, 体長 60.8 mm 鹿児島市 障子川



■ クロヨシノボリ KAUM-I. 11543, 体長 43.9 mm 屋久島

特徴 体はやや細い。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸^{きゅう}盤^{ばん}状^{じょう}。体は茶色、オスは全身が黒っぽい。オスの第1背^{だい}鰭^せは尖^{とが}る。尾^お鰭^{びれ}に点^{ちよう}々^{むな}模^な様^{びれ}。胸^{たて}鰭^{なが}のつけねに暗色の帯^{おび}が1本ある。尾^ほ鰭^ほのつけねに上下に並^なぶ、やや縦^{たて}長の黒^{たて}点^{なが}が2つある。頬^ほに小^{ちひ}さな赤^{あか}点^{ちよう}がたくさんある。

分布と生態 流れが急な小河^{すい}川^{せい}にすみ、石^{いし}の多^{おほ}いところを好^{この}む。水生^{すいせい}昆^{こん}虫^{ちゆう}などを食^くべる。鹿児島市^{さつ}内^{ちゆう}では、障^{しょう}子^じ川^がと愛^{あい}宕^{とう}川^がでみられ、長^{なが}く大^{おほ}きな川^がにはい^いないよう^{よう}だ。

メモ ヨシノボリ^{るい}類^{るい}など川^がにすむハゼの多^{おほ}くは、子^こども^{ども}のとき^{とき}に海^{うみ}におりて、成^{なり}長^{なが}すると川^がにもど^{もど}ってくる。(松^{まつ}沼^{ぬま})



川 オオヨシノボリ

Rhinogobius fluviatilis

■ オオヨシノボリ KAUM-I. 10561, 体長 69.9 mm 鹿児島市 新川



■ オオヨシノボリ KAUM-I. 10563, 体長 55.7 mm 鹿児島市 新川



■ オオヨシノボリ KAUM-I. 10562, 体長 51.2 mm 鹿児島市 新川

特徴 体はやや長く、大型個体ではとくにスマート。体は暗い茶色。胸鰭のつけねの上のほうに、円形か三角形の黒い模様がある。背鰭、臀鰭、尾鰭は、褐色でふちどられるのみで、目立つ模様がない。尾鰭のつけねに、カモメ状の太い黒色の帯模様がある。

分布と生態 鹿児島県の九州地方は、本種の分布の南限。島には分布しない。長く大きな河川の中流から上流にかけてみられる。流れのはやく、大きな石が多いところを好む。鹿児島市内では、甲突川、新川、永田川、五位野川から採集されている。

メモ トウヨシノボリと見分けるのが困難な場合があるが、オオヨシノボリの尾鰭のつけねの帯模様は力強い印象をうける。鹿児島県の九州地方に分布するヨシノボリ類のうちでは、最も大きくなる。(松沼)



ゴクラクハゼ

Rhinogobius similis

川



■ ゴクラクハゼ KAUM-I. 39076, 体長 73.0 mm 種子島



■ ゴクラクハゼ KAUM-I.6655, 体長 38.4 mm 蒲生町 住吉池



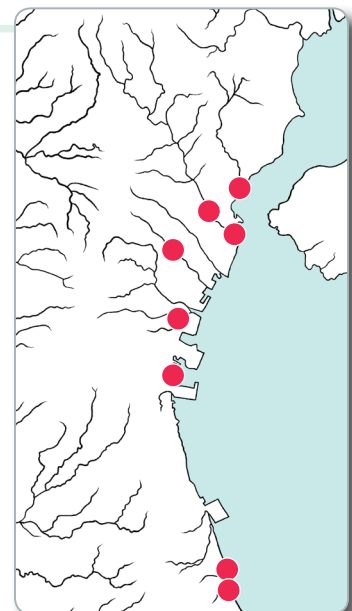
■ ゴクラクハゼ KAUM-I.6654, 体長 34.2 mm 蒲生町 住吉池

特徴 体はやや長い。背^せびれ^{びれ}は2つ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状。体は茶色で、黒^{くろ}い模様^{もよう}が1列^{いれつ}にならぶ。頬^{ほほ}に赤^か色^{しよく}か褐^{ちやく}色^きのミミズ^{みみず}模様^{もよう}がある。繁殖^{はんしよく}期^きのオス^おの鱗^{うろこ}には青^{せい}色^この光沢^{こうたく}があり、鰭^{ひれ}は赤^かみが強^{ちやう}くなる。

分布と生態 河口^{かこう}でよくみられるが中流^{ちゅうりゅう}あたりにもいる。石^{いし}の下^{した}に隠^{かく}れる。鹿児島^{かりゆー}県^{けん}では九州^{きゅうしゅう}地方^{ちほう}から琉球^{りゅうきゅう}列島^{りつとう}まで広く分布^{ぶんぷ}する。鹿児島^{かりゆー}市^し内^{うち}では、稲荷^{いなり}川^{がわ}、甲突^{こうつき}川^{がわ}、永田^{ながた}川^{がわ}、障子^{しょうじ}川^{がわ}、貝底^{けそこ}川^{がわ}、鈴川^{すず}のおも^もに下流^{かこう}から河口^{かこう}でみられる。

メモ 子どもは海^{かい}で生活^{せいふ}したあとに、川^{かわ}にもどってくる。湖沼^{こしやう}やダム^{だむ}湖^こに閉じ込められ、海^{かい}におりられたなくなったものもいる。

そのほかのヨシノボリ^{よしનોぼり}類^{るい}とよく似るが、ゴクラクハゼ^{ごくらくはぜ}は体^{たい}型^{けい}がずんぐりして頭^{あたま}が大きい、頬^{ほほ}に太^{ちやう}いミミズ^{みみず}模様^{もよう}があることで見分^みけら^れる。(松沼)



川 シマヨシノボリ

Rhinogobius nagoyae



シマヨシノボリ KAUM-I. 6392, 体長 42.6 mm 志布志市 前川



シマヨシノボリ KAUM-I. 6399, 体長 32.1 mm 大崎町 田原川



シマヨシノボリ KAUM-I. 1025, 体長 47.3 mm 種子島

特徴 体はややずんぐり。背^{せびれ}鰭は2つ。腹^{はらびれ}鰭は吸盤^{きゅうばんじょう}状。体は茶色で、頬^{ほほ}に赤色のミミズ^{ちよう}模様がある。腹は青み^{むなびれ}がかかる。胸^{むな}鰭のつけねに、暗い帯^{ちよう}模様と黒色の斑点^{はんでん}が一つある。尾^{おびれ}鰭のつけねに、カモメ^{おびれ}形の黒い模様がある。尾^{おびれ}鰭の縞^{しま}模様がよく目立つ。

分布と生態 短い川^{かりゅう}に多い。下流^{ちゅうりゅう}から中流^{ちゅうりゅう}でみられる。石の多いところを好む。鹿児島市内では、脇^{わきた}田川、永^{ながた}田川、障^{しょうじ}子川、五位^{ごい}野川でみられる。

メモ ゴクラクハゼとよく似^にるが、シマヨシノボリの頬^{ほほ}のミミズ^{ちよう}模様は、ゴクラクハゼのものよりも細い。また、ゴクラクハゼには尾^{おびれ}鰭の縞^{しま}模様が^{はんしよくき}ない。繁殖^{ふくふ}期のメスの腹部^{あび}は、鮮やかな青色になり、とてもきれい。(松沼)



ルリヨシノボリ 川

Rhinogobius sp. CO



ルリヨシノボリ KAUM-I. 6692, 体長 61.1 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 体はやや長く、頭は小さい。背^せ鰭^{びれ}は2つ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状。体は茶色で、頬^{ほほ}に光沢のある青白点がたくさんある。尾^お鰭^{びれ}のつけねに、Y字形の黒色の模様^{もよう}がある。

分布と生態 長く大きな川にすむ。中流^{ちゅうりゅう}から上流^{じょうりゅう}でみられ、流れが速く、大きな石のあるところを好む。鹿児島県では九州地方でみられるが、ルリヨシノボリのすむ川は多くない。鹿児島市内では、甲突川^{こうつき}の上流にある支流^{しりゅう}でのみ生息^{せいそく}が確認^{かくにん}されている。

メモ 生きているときは、頬^{ほほ}にある青色の斑点^{かがや}が輝き、とてもきれいなハゼ。(松沼)





■ トウヨシノボリ KAUM-I. 28033, 体長 34.7 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ トウヨシノボリ KAUM-I. 7344, 体長 44.7 mm 霧島市 天降川



■ トウヨシノボリ KAUM-I. 28025, 体長 37.7 mm 鹿児島市 松元ダム湖

特徴 体はやや長く、頭は小さい。背^せ鰭^{びれ}は2つ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状になる。体色は個体差^{こたいさ}が大きい。頬^{ほほ}に赤色の点^{ちよう}がたくさんある。胸^{むな}鰭^{びれ}のつけねに、赤色や黒色の模様^{おびれ}が1つある。尾^お鰭^{びれ}のつけねに黒色の帯^{おびれ}がある。個体^{こたい}もいるが、オオヨシノボリのように太くない。尾^お鰭^{びれ}のつけねから中央^{だいたい}にかけて 橙^{だいだい}色。

分布と生態 さまざま^{かんきょう}な環境^{かんきょう}にすみ、川^{かりゅう}の下流^{じょうりゅう}から上流^{じょうりゅう}にかけて広くみられる。ダム湖^こでもよくみられる。鹿児島^{ぶんぶ}県^{けん}では九州^{こうしゅう}地方^{ちほう}にだけ分布^{ぶんぷ}する。鹿児島^{しん}市内^{わきた}では、甲突^{こうつき}川^{せん}、新^{しん}川^{わきた}、脇^{わきた}田^た川^{せん}、甲突^{こうつき}川^{せん}、五位^ご野^の川^{せん}、鈴^{すず}川^{まつもと}、松元^{まつもと}ダム湖^こなどでみられる。

メモ オオヨシノボリと見^み分^わけるのがむずかしいが、トウヨシノボリ^{おびれ}は、尾^お鰭^{びれ}のつけねにある黒^{くろ}い模様^{ちよう}が弱^{じやく}い。(松沼)



ヌマチチブ 川

Tridentiger brevispinis

■ヌマチチブ KAUM-I. 6391, 体長 40.0 mm 志布志市 前川



■ヌマチチブ KAUM-I. 6326, 体長 37.0 mm 肝付町 肝属川



■ヌマチチブ KAUM-I. 1175, 体長 20.1 mm 鹿児島市 和田川

特徴 体はずんぐり。背^せ鰭^{びれ}は2つ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤状。体は黒色。第1背^{だい}鰭^{びれ}に、3本の茶色や赤色の細い縞^{しま}模様がある。頭^かに、小さな白点^{ちゅうりゅう}がたくさんある。

分布と生態 川の海水がまじる河^か口^{こう}から中流^{ちゅうりゅう}までみられる。流れがゆるやかなところを好む。雑食^{ざっしょくせい}性で藻類^{そうるい}や小さな動物を食べる。鹿児島県内では、九州地方に広く分^{ぶん}布^ぷする。鹿児島市内では、永田^{ながた}川^がの下流^{かりゅう}で採集された。

メモ チチブによく似^にるが、チチブの第1背^{だい}鰭^{せびれ}には、はっきりとした縞^{しま}模様がないことで見分けられる。(松沼)





■ チチブ KAUM-I. 5059, 体長 87.1 mm 鹿児島市 永田川



■ チチブ KAUM-I. 8836, 体長 76.5 mm 鹿児島市 和田川

特徴 体はずんぐり。背^{せびれ}鰭は2つ。腹^{はらびれ}鰭は吸盤状。体は黒色。頭に、小さな白点がたくさんある。胸^{むなびれ}鰭のつけねに黄色の帯模様がある。やや大型^{おおがた}のハゼで 15 cm ほどになる。オスの第1背^{だいせびれ}鰭は糸状にのびる。

分布と生態 川の海水がまじる河口から中流までみられる。流れがゆるやかなところを好む。雑食性^{ざっしょくせい}で藻類や小さな動物を食べる。鹿児島県内では、九州地方に広く分布^{ぶんぷ}する。鹿児島市内では、多くの川の河口^{かこう}でみられ、稲荷川^{いなり}、甲突川^{こうつき}、新川^{しん}、脇田川^{わきた}、永田川^{ながた}、障子川^{しょうじ}、鈴川^{すず}で採集されている。

メモ ヌマチチブよりも汽水^{きすい}(海の水がまじるところ)を好むようだ。(松沼)



サツキハゼ 川海

Parioglossus dotui

■ サツキハゼ KAUM-I. 8812, 体長 31.4 mm 鹿児島市 甲突川



■ サツキハゼ KAUM-I. 21615, 体長 23.7 mm 屋久島

特徴 こがた 小型のハゼで 4 cm ほど。体はやや長く、横に平たい。口は はらびれ きゅうばんじょう ななめにつく。腹鰭は吸盤状ではない。黄色みのある灰色で、眼から おびれ おびれ こくはん 尾鰭のつけねにかけて 1 本の黒帯がある。尾鰭の黒斑は横に長い長方形。

分布と生態 えいきょう かこう 海水の影響が強い河口や、港などおだやかな内湾でみられる。河口では、橋の橋脚や壁のまわりに群れることが多く、おどろくと、壁についた牡蠣殻の間に逃げる。鹿児島市内では、いなり 稲荷川と かこう 甲突川の河口でみられる。

メモ ベニツケサツキハゼといっしょに たいぐん 大群をつくる。小さいが、とてもきれいなハゼ。(松沼)



海川 ベニツケサツキハゼ

Parioglossus philippinus

ベニツケサツキハゼ KAUM-I. 10694, 体長 27.6 mm 鹿児島市 稲荷川



ベニツケサツキハゼ KAUM-I. 81877, 体長 34.6 mm 高知県



ベニツケサツキハゼ KAUM-I. 8817, 体長 27.6 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 小型のハゼで 4 cm ほど。体はやや長く、横に平たい。口は、はらびれ きゅうばんじょうななめにつく。腹鰭は吸盤状ではない。黄色みのある灰色で、眼からおびれ尾鰭のつけねにかけて 1 本の黒帯がある。尾鰭の黒斑は三角形か丸い。

分布と生態 海水の影響が強い河口や、港などおだやかな内湾でみられる。河口では、橋の橋脚や壁のまわりに群れることが多く、おどろくと、牡蠣殻の中や物陰に逃げる。鹿児島市内では、稲荷川、甲突川あたこ愛宕川の河口でみられる。

メモ サツキハゼによく似るが、おびれ尾鰭にある黒い模様の形が異なる。ベニツケサツキハゼでは、丸いか三角形だが、サツキハゼでは長方形で横に長い。(松沼)



クロホシマンジュウダイ 川海

Scatophagus argus



■ クロホシマンジュウダイ KAUM-I. 8815, 体長 34.0 mm 鹿児島市 甲突川



■ クロホシマンジュウダイ KAUM-I. 938, 体長 16.3mm 鹿児島市 永田川



■ クロホシマンジュウダイ KAUM-I. 27574, 体長 235.8 mm 鹿児島湾

特徴 体は、横から見て丸いか、六角形に近い。頭は小さく、口はとがる。黒色から緑がかった灰色。幼魚は体に縞模様があるが、成長するにつれて斑点模様になる。

分布と生態 南の暖かい海にすむ魚で、日本では琉球列島で多くみられる。鹿児島湾内と湾に流れ込む川では、幼魚から成魚までみられる。大隅半島の河口では、体長 2-3 cm の幼魚が群れているのがしばしば観察される。鹿児島市の川では、永田川と甲突川から採集されている。

メモ ふだんは、流木などの陰に隠れている。およぐときは落ち葉が流れるようにおよぎ、天敵の目をごまかして身を守る。

東南アジアでは、一般的な食用魚だが、日本ではほとんど利用されていない。(福井)





■ アミメハギ KAUM-I. 28996, 体長 41.7 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ アミメハギ KAUM-I. 28999, 体長 34.3 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ アミメハギ KAUM-I. 28997, 体長 35.3 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸

特徴 カワハギの仲間^{なかま}で、体は丸く、横に平たい。体は茶色で名前の通り^{あみめちよう}、網目模様をもつ。背鰭^{せびれ}の棘^{きよく}は固くとがる。

分布と生態 浅い海^{かいそう}の海藻^{かいそう}の生えるところ^{いなり}で多くみられる。鹿児島市では、稲荷川横^{いなり}の海岸でとれた。

メモ カワハギの仲間^{なかま}でも小さい種^{かいつう}で、大人でも7cmほどにしかない。夜は、海藻^{かいそう}をくわえて眠る様子^{かんさつ}が観察できる。大きくならないので食用にならない。

海藻^{かいそう}の生えるところは、藻場^{もば}とよばれる。藻場^{もば}は、たくさんの生きものが成長したり、餌^{えさ}をとる場所で、海の生きものにとって大切な場所だ。(福井)



クサフグ 川海

Takifugu niphobles



クサフグ KAUM-I. 5060, 体長 132.6 mm 鹿児島市 永田川



クサフグ KAUM-I. 5015, 体長 127.8 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体はやや細長い卵型で、^{うろこ}鱗がない。背中に多くの白い点がある。
^{むなひれ}胸鰭のつけねの後ろに大きな黒い点がある。

分布と生態 ^{ぎょこう}漁港など波のないところでよくみられる。川では、
^{かこう}河口でよくみられる。春から初夏にかけて、^{しよか}海岸に大群でおしよせて
 卵を産む。鹿児島市では、多くの川の^{かこう}河口でみられ、^{ながた}永田川と^{けそこ}貝底川
 で^{さいしゅう}採集されている。

メモ ^{げどう}釣りの外道でよく釣れる。釣りあげると「きゅっきゅっ」と
 音を出す。^{ないぞう}内臓などに^{どく}毒をもつので、食べずに観察するだけにしよう。
 (福井)



この冊子は、NPO 法人かごしま市民環境会議の村山雅子さんと高山真由美さんが、長年にわたり主催されてきた鹿児島市の河川と稲荷川河口の海岸での自然観察会と、鹿児島大学総合研究博物館が行った調査で得られた成果をもとに作製しました。これまでに行ってきた淡水魚の調査では、つぎにあげる個人・団体の皆様に多大なご協力をいただきました。松元ダム湖での調査にあつたてさまざまな便宜を図ってくださった鹿児島市松元土地改良区の吉村清美さん、和田了子さん、四元成子さん、滋賀県立琵琶湖博物館の中井克樹さん。自然観察会で講師を引受けていただいた出羽慎一さん(ダイビングサービス海案内)、池 俊人さん(鹿児島県立博物館学芸主事)、米沢俊彦さん(鹿児島県環境技術協会)、行田義三さん(日本貝類学会会員)、徳永修治さん(新和技術コンサルタント株式会社 環境調査部環境調査課)。おもに甲突川水系での調査にあたつてご協力をいただいた鹿児島市環境未来館と鹿児島市環境局環境部環境保全課、NPO 法人メダカの学校かごしまの職員の皆様。園内を流れる五位野川での調査の機会と便宜を図ってくださった公益財団法人鹿児島市公園公社平川動物公園の職員の皆様。自然観察会に参加していただいた参加者の皆様。長年にわたり鹿児島市の河川での魚類相調査と標本収集をしてこられた鹿児島大学総合研究博物館 魚類分類学研究室の学生・卒業生、ならびにボランティアの皆様。また、ここにあげることができなかったさまざまな方々にご協力いただきました。以上の方々のお力添えとご尽力がなければ、このような形でとりまとめることはできませんでした。心よりお礼を申し上げます。



まつぬま みずき

■ 松沼 瑞樹

博士（農学）。高知大学理学部海洋生物学研究室・日本学術振興会特別研究員 PD。
専門はフサカサゴ科ミノカサゴ亜科魚類の分類学。

ふくい よしの

■ 福井 美乃

鹿児島大学大学院連合農学研究科・博士課程 1 年。
専門はベラ科魚類の分類学。

もとむら ひろゆき

■ 本村 浩之

博士（農学）。鹿児島大学総合研究博物館，館長，教授（鹿児島大学大学院連合農学研究科教授を兼任）。
専門はフサカサゴ科魚類の分類学。



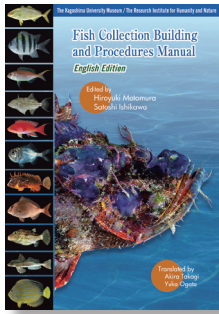
鹿児島市の川魚図鑑

ISBN	978-4-905464-06-8
発行日	2016 年 8 月 1 日
編著者	松沼瑞樹・福井美乃・本村浩之
DTP	松沼瑞樹
発行所	鹿児島大学総合研究博物館 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 Tel: 099-285-8141; fax: 099-285-7267 http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/
印刷所	株式会社朝日印刷 〒 890-0055 鹿児島市上荒田町 55-1 Tel: 099-251-2191; fax: 099-253-7331

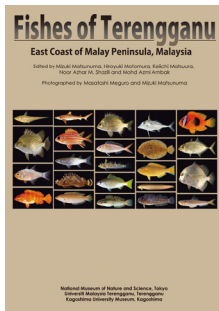
Citation:

松沼瑞樹・福井美乃・本村浩之. 2016. 鹿児島市の川魚図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 86 pp., 221 figs.

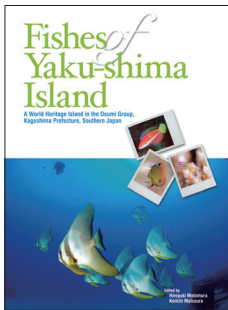
Matsunuma, M., Y. Fukui and H. Motomura. 2016. Freshwater fishes of Kagoshima City, southern Kyushu, Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. 86 pp., 221 figs.



【英語版】Motomura, H. and S. Ishikawa (eds.). 2013. Fish collection building and procedures manual. English edition. The Kagoshima University Museum, Kagoshima and the Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto. 70 pp.



Matsunuma, M., H. Motomura, K. Matsuura, N. A. M. Shazili and M. A. Ambak (eds.). 2011. Fishes of Terengganu – east coast of Malay Peninsula, Malaysia. National Museum of Nature and Science, Tokyo, Universiti Malaysia Terengganu, Terengganu, and Kagoshima University Museum, Kagoshima. viii + 251 pp., 678 figs.



Motomura, H. and K. Matsuura (eds.). 2010. Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo. viii + 264 pp., 704 figs.

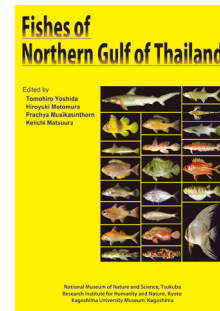


本村浩之・松浦啓一(編). 2014. 奄美群島最南端の島 ― 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 648 pp., 1808 figs.

鹿児島大学総合研究博物館発行の魚類学シリーズ



【日本語版】本村浩之(編著). 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 70 pp.



Yoshida, T., H. Motomura, P. Musikasinthorn and K. Matsuura (eds.). 2013. Fishes of northern Gulf of Thailand. National Museum of Nature and Science, Tsukuba, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, and Kagoshima University Museum, Kagoshima. viii + 239 pp., 621 figs.



本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編). 2013. 鹿児島県三島村 ― 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 390 pp., 883 figs.



鹿児島大学総合研究博物館発行の魚類学シリーズは以下のサイトからダウンロードできます。
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>

